

平成30年第14回

荒川区教育委員会定例会

平成30年7月27日

於)304会議室

荒川区教育委員会

平成30年荒川区教育委員会第14回定例会

1 日 時 平成30年7月27日 午後1時30分

2 場 所 304会議室

3 出席委員 教 育 長 高 梨 博 和
教育長職務代理者 小 林 敦 子
委 員 坂 田 一 郎
委 員 高 野 照 夫
委 員 小 池 寛 治

5 出席職員 教 育 部 長 阿 部 忠 資
教 育 総 務 課 長 山 形 実
学 務 課 長 小 堀 明 美
指 導 室 長 瀬 下 清
書 記 佐々木 希久子
書 記 大久保 和 彦
書 記 古 川 卓 也
書 記 小 川 綾 一
書 記 早 坂 利 春
書 記 宮 島 弘 江

(1) 審議事項

議案第 28 号 平成 31 年度から使用する中学校「特別の教科 道徳」教科用図書の採択
について

議案第 29 号 平成 31 年度に使用する小学校教科用図書の採択について

議案第 30 号 平成 31 年度に特別支援学級で使用する一般図書の採択について

(2) その他

教育長 本日は傍聴の方々がいらっしゃいます。それでは事務局の皆さん、傍聴人をお呼びください。

教育委員会の審議に先立ちまして、傍聴の皆様にお願いがございます。皆様にお配りいたしました傍聴券に記載の注意事項をよくお読みいただきまして、審議の際に発言等で議事を妨げることはないようお願い申し上げます。

それでは、ただいまから荒川区教育委員会第14回定例会を開催いたします。

まず初めに、出席者数の御報告を申し上げます。本日5名全員出席でございます。議事録の署名委員につきましては、小林委員及び高野委員をお願いいたします。

4月13日開催の第7回定例会の議事録につきましては、前回の定例会で配付させていただき、この間、委員の皆様にご確認いただきました。特に御意見等がなければ議事録について承認とさせていただきたいと存じますが、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

教育長 それでは承認といたします。

また、4月27日開催の第8回定例会及び5月11日開催の第9回定例会の議事録を机上に配付してございます。次回の定例会で承認についてお諮りいたしますので、次回までに御確認いただき、お気づきの点等について事務局まで御連絡をお願いいたします。

それでは本日の議事日程に従いまして、議事を進めてさせていただきます。本日は議案3件となっております。

まず初めに、議案第28号「平成31年度から使用する中学校『特別の教科 道徳』教科用図書の採択について」を議題といたします。

荒川区教育委員会におきましては、3月9日に開催した定例会におきまして、今回の中学校「特別の教科 道徳」教科用図書の採択方針及び手続を確認し、6月22日に開催した定例会において、選定調査会からの報告を受けてございます。この間、委員の皆様には調査研究のほか、勉強会等を開催し、東京都教育委員会による教科書調査研究資料などの調査ですとか、教科書展示会におけるアンケートなども御参考にさせていただき、研究を深めていただいております。本日はそれらの調査研究の結果をお持ち寄りいただきまして、教科書の採択を行いますので、どうぞよろしくようお願い申し上げます。

また、本日は指導主事の出席を求めておりまして、必要な場合には説明や報告を行わせたいと考えてございます。よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

教育長 それでは審議に入ります。議案第28号「平成31年度から使用する中学校『特別の教科 道徳』教科用図書の採択について」を議題といたします。

それでは指導室長、議案の説明をお願いいたします。

指導室長 着座にて御説明を申し上げます。

それでは議案第28号「平成31年度から使用する中学校『特別の教科 道徳』教科用図書の採択について」、御説明を申し上げます。

提案理由でございます。平成31年度から荒川区立中学校で使用する「特別の教科 道徳」教科用図書を採択するものでございます。

内容でございます。文部科学省より示されております「中学校用教科書目録 平成31年度使用」に掲載されております中学校「特別の教科 道徳」の教科用図書の中から一つを荒川区立学校教科用図書採択要綱に基づきまして、採択するものでございます。

調査の経過でございます。簡単に申し上げます。荒川区立学校教科用図書採択要綱に基づきまして、5月29日に教科用図書選定調査会を設置いたしました。この選定調査会は、学識経験者、地域関係者、保護者、学校関係者の計8名で組織され、2回の選定調査会を通し中学校「特別の教科 道徳」の教科用図書に関しまして、調査研究を行いました。この間、選定調査会が中学校「特別の教科 道徳」教科用図書に関し、専門性の高い本区の中学校長及び教員により組織されます教科専門部会に調査を依頼いたしまして、その報告を受け、その内容を参考にしながら具体的な調査研究をまいりました。机上に配付させていただきました教科用図書選定調査会、調査研究報告書に調査結果をまとめてございます。

また、広く区民の皆様や各学校の教員などに直接教科書を見ていただき、たくさんの意見を頂戴するため、6月5日から6月28日まで教育センター内において、6月13日から6月15日まで尾久八幡中学校、6月26日から6月28日まで第三中学校で、区民の皆様向け教科用図書展示会を行いました。また教職員閲覧会として、6月11日から6月18日まで第四中学校、第五中学校、第七中学校、尾久八幡中学校、原中学校の5校、6月22日から6月29日まで第一中学校、第三中学校、第九中学校、南千住第二中学校、諏訪台中学校の5校で教科用図書展示を行いました。

その間、区民の方31名、教員108名、合計で延べ139名の入場者がございまして、81名の方からアンケートの回答をいただきました。これら教科用図書選定調査会、調査研究報告書及び展示会アンケート等を参考にいただきながら、御審議をいただき、採択についてよろしくお願いを申し上げます。

以上でございます。

教育長 説明ありがとうございました。本議案の審議及び採決の方法でございますけれども、事務局から、この後、改めて調査内容の報告を受けた後に、各委員の皆様から報告内容に

対する質疑ですとか、各社の教科用図書に対する意見、候補とすべき図書の推薦などについて、御発言をいただきたいと考えてございます。その後、協議をさせていただく中で、最終的に大方の方向が定まったと判断された段階で採決を行うこととなります。最終的に委員の皆様のご意見が分かれ、複数の候補が残った場合については、その複数の候補について議案に記載されている発行者の順に、その発行者の図書がふさわしいと判断される委員の皆様にご挙手していただくという形で採決いたします。その場合、本日の出席者5名ですので、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条の規定により、過半数の3票を獲得した発行者の図書が採択となります。いずれの教科用図書も3票に達しない場合は、再度審議、採決を行います。

なお、退席により出席者が4名となり、可否同数の場合は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条の規定により、教育長が決定することとなります。御異議ございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

教育長 それでは皆様のご同意が得られましたので、そのように取り扱うことといたします。

それでは、審議、採決に移らせていただきます。まず初めに、指導室長から「特別の教科 道徳」について説明をしていただきます。お願いします。

指導室長 それでは、平成31年度使用中学校教科用図書調査研究報告書の内容を御説明いたします。選定調査会の調査報告につきまして、御説明をさせていただきます。こちらの報告書では、次の4点を重点的に調査研究いたしました。

一つ目は、内容項目のバランスでございます。これは道徳的価値の四つの視点が教材にはございますが、そのバランスが適切であるかというところでございます。

二つ目は、「特別の教科 道徳」が新設された背景についてでございます。今日的課題として、いじめ、生命尊重、情報モラルの教材がどのように扱われているかというところでございます。

三つ目でございます。問題解決的な学習でございます。これは道徳の授業を行う上で、子どもたちに教え込むというのではなくて、子どもたち自身が問題解決的な学習として自主的に学べるというものでございます。

四つ目でございます。体験的な学習でございます。道徳の講義に関しまして、体験的な学習が授業の中でどうできるのかというところでございます。

この4点を重点的に見ていながら、各者の特色、特徴を見ていきました。

それでは、調査研究報告書の中でございます。A3判の用紙が4枚ございます。その中に8者から発行される教科用図書の特徴的なところを整理してございます。

まず各者内容項目のところには表が示されてございます。これは「学習指導要領」に示されている道徳的諸価値の四つの項目、一つ目は自分自身に関する事、二つ目が人との関わりに関する事、三つ目が集団や社会との関わりに関する事、四つ目が生命や自然、崇高なものにかかわるものでございます。こちらの四つについての表で、1学年ごとだけではなくて、3年間で扱う各項目の合計を設けることで、3学年を通しまして内容項目がどこを重点的にうたっているのかわかる表になってございます。

それでは、これから発行者ごとに御説明をいたします。

まず東京書籍「新しい道徳」でございます。内容の中の分量としまして、必修で30教材、そして付録で5教材となっております。この5教材については、ほかのものに振りかえられるものでございます。そのことから荒川区がつくった教材集なども使うことができるようになります。また、考え、議論する道徳ということで、教材の冒頭に主題が明示されているものでございます。

いじめ問題につきましては、二つの教材と一つのコラムをまとめてユニット形式という形で、いじめ問題を触れてございます。1年生2本、2年生2本、3年生2本でございます。

また学習活動においては、問題解決学習の中で主題を明示した流れについて「つぶやきコーナー」というものを設けて示されてございます。体験的な学習の部分は各学年で2カ所、役割演技を中心とした学習が入ってございます。

使用上の便宜につきまして、荒川区では電子黒板が各教室にございますので、このデジタル教科書の対応について重点を置き、報告がなされてございます。このことにつきましては御説明する7者についても同様でございます。東京書籍については、対応がございません。

次に学校図書「輝け 未来 中学校道徳」でございます。内容でございます。内容の中の家庭教育との連携というところで、最後のページに保護者向けの解説の設定がございません。分量は35教材でございます。各学年の冒頭に良好な学級集団を構築するためのグループワークを行う学習が設定してございます。

そして内容項目でございます。四つの視点の中で3年間を通して集団社会が48項目になってございます。いじめ問題につきましては、いじめを直接扱う教材と、いじめにつながるであろうという場面を取り上げ、間接的に扱う教材という2種類がございます。1年生、2年生、3年生とも2本ずつでございます。

学習活動のところでは、教材ごとに書き込みスペースというものがございます。

続きまして、教育出版「中学道徳 とびだそう未来へ」でございます。学期の振り返り

ができるように、1時間ごとに学習の記録のページが設定としてございます。分量が30教材と、5補充教材ということでございます。5教材につきましては、入れかえが可能となります。

表記のところで、5行ごとに行番号がついているところが特色でございます。

内容項目の構成でございます。3年間を通して扱う集団社会の内容項目が多くございます。いじめ問題に関する教材は、1年生が3本、2年生が2本、3年生が2本となっております。生命尊重に関する教材は1年生に4本となっております。

学習活動のところでは、その他のところで教材の末尾に「学びの道しるべ」という学習の流れが発問として出てございます。

続きまして、光村図書出版「中学道徳・きみが いちばんひかるとき」でございます。内容の1年間を四つの学習のまとまりにしてございます。1学期を4月、5月と6月、7月と、1学期を二つのシーズンに分けており、あとは2学期、3学期と年間を四つのシーズンに分けて教科書がつくられてございます。各シーズンの中に複数の教材、ユニット形式をとった教材の設定がなされております。分量は36教材、うち小学校で学んだ教材が1本入ってございます。また内容構成に関する特色として、絵本、また漫画形式の教材などが含まれているところがございます。

内容項目でございます。集団・社会が36項目と多く記載されてございます。いじめ問題に関しまして、教材とコラムで構成されております。1年生が1本、2年生が1本、3年生が1本になってございます。生命尊重に関しまして、1年生が3本、2年生が3本、3年生が3本になってございます。

学習活動につきまして、その他のところで巻末に各分野で活躍している人物から、生徒へメッセージが直筆で書いてあるところが特色でございます。

続きまして日本文教出版「中学道徳 あすを生きる」でございます。教科書の全教材に対応した別冊として、「道徳ノート」がついてございます。また、いじめなどの重要なテーマについては、複数の教材、コラムをユニット形式として教材が掲載されてございます。分量は35教材でございます。教材の冒頭には、主題が明示されております。生徒の身近な教材ということで、2年生には職場体験、3学年には修学旅行に関する教材が掲載されてございます。

問題解決的な学習や体験的な学習がイメージできるような写真が掲載されております。

内容項目では、3年間を通して集団・社会が45項目になってございます。いじめ問題に関しましては、1年生は1年間で3カ所ユニット形式をとった教材が設定されてございます。1年生7本、2年生5本、3年生6本となっております。

学習活動では、「道徳ノート」を用いて言語活動の充実を図っているものになってございます。

続きまして、学研教育みらい「中学生の道徳 明日への扉」でございます。内容の中で地球と地域の未来のためにというものと、スポーツの世界でともに輝くという二つのテーマに関しまして、複数教材のユニット形式で掲載されている教材が入っております。分量は35教材でございます。生徒の問題意識を大切に、主体的に学習できるように本文中に主題を掲載しておりません。

また表記・表現のところ、余白を適度に確保するという事で、余白が少し大き目になってございます。

いじめ問題に関しましては、いじめを直接扱う教材と間接的に扱う教材がございまして、1年生が4本、2年生が4本、3年生が6本ございます。

体験的な学習のところでございます。特設ページとして「クローズアッププラス」というページがございます。ここではアンガーマネジメント、またメンタルトレーニングという教材が含まれており、気持ちを落ちつかせるための学びができる教材が掲載されてございます。

続きまして、廣済堂あかつき「中学生の道徳」でございます。教科書と別冊の「道徳ノート」がございます。「道徳ノート」は、内容項目ごとに記載されております。分量は35教材でございます。

内容項目でございます。いじめ問題に関する教材が1年・2年2本、3年生1本、生命尊重に関しまして1年生が4本、2年生が9本、3年生が6本になってございます。

学習活動のところ、言語活動がございます。教科書で話す活動、聞く活動を中心に扱われるようになっております。読む活動、書く活動の活動別に教科書と「道徳ノート」を別々に使うことができます。

続きまして、日本教科書「道徳 中学校」でございます。分量が37教材ございます。内容構成として、目次を自分自身、人、集団・社会、生命や自然・崇高なものという四つの項目ごとに分けております。そのためページごとに目次ではなく四つの項目ごとに独自になっております。

内容項目でございます。いじめ問題と生命尊重のこの二つを合わせた教材になっているのが特徴でございます。1年生4本、2年生2本、3年生3本でございます。

各教科書の特色につきまして、以上でございます。

教育長 ただいま調査会の報告内容について、説明がございました。

それでは、この後委員の皆様には、ぜひ御審議をお願いしたいと存じます。いかがでし

ようか。

それでは高野委員、どうぞ。

高野委員 今、指導室長の御説明がございましたが、若干重複するかもしれませんが、まず内容項目、四つの項目がバランスよく保たれていること、そして議論ができるような形になっていること、それともう一つ、最近注目されているけじめ、メディアリテラシー、情報モラルを深めるようになってきていること、それとWHOで病気だと認定されつつあるネット依存対策、これらに関して頭に入れながら選択いたしました。

そしてさらに現場の先生方の意見、荒川区民の意見の採用を多くしたいために、アンケート調査を重視しました。広い見地から、言葉をいえば天の目から、上から見たような気持ちになって選んだつもりです。

この本の大切なことは、社会生活、暮らしの仕方をいかにするかを、年間35時間という短い時間で子どもたちに十分身につけさせる、それが極めて肝心だということです。

内容が理解しやすいもの、複雑なものも随分ありましたけれども、授業時間内で生徒個々が考える時間が十分で、さらにディスカッションができて、その時間内に自分の体に身につけてしまうことが、この科目には必要だろうということが私の選んだ基準であります。

そういうことを基準として選択いたしました。指導室長からお話ししましたように、非常にバラエティに富んだ視点を持った本が多かったのですが、幾つか私が興味を引かれたものについて、特徴を述べまして、そして結論を述べたいと思います。

まず、東京書籍「新しい道徳」です。これは非常に文章や絵が見やすく華やかです。明るく引きつける魅力的な文章でありました。最初に、きょうから始まる、さらなる高みを目指すのだということを強く訴えて、非常にアトラクティブな本と見受けました。すべて4項目も十分に満たしていきまして、各学年における重点目標を掲げておりました。問題解決を自分自身で主体的に考えることに重点が置かれていました。教材の文章が長くなくて、考えてみよう、そのための討論の時間もとれるようにできていると思いました。

さらに、議論する時間や自分の振り返る時間が十分にあると感じました。そしていじめの問題、生命の尊重、情報モラルについても取り上げ、これら諸問題を各学年ごとに相当し、高い学年になればなるほどレベルを徐々に上げていくというような構成がされていました。

それから将来の生活に適應できる人として成長できるように学習意欲を上げるような配慮も十分されておりました。これはすばらしい、見やすくきれいな本でありました。

アンケート調査でも、好成績が得られておりました。私の採点の点数は高かったです。

次に、光村図書出版です。「きみが いちばんひかるとき」。「学習指導要領」で挙げられ

ている内容項目四つ、バランスよくまとめられています。各学年のシーズンごとに教材をくくってユニットを構成して、何を学習するか、目的が非常に明確になっておりました。さらにユニットをつながりという形で関連づけさせる、物事の、社会の成り立ちの考え方、どうしてどうつながっているのだという、生徒たちにつながりを思考させるような構成になって、十分そういう点が配慮されて、これもすばらしい本だと思いました。

各教材の一つ一つにテーマを掲げて、考える観点、また相対立した見方について指導できるようにできております。日常生活、他の教科とのかかわりを示して、そういうことについて書かれていました。自分の気がついた事項をメモとしておくようにも指導されておりました。そういう点で考えさせることを重点に置いて、個人の道德観を深める、そして、社会全体に 응용が利くような考え方を子どもたちに伸長させる、豊かにさせようとする意図が見えました。

各学年に相当する内容を持ってレベルアップしていった、構成も非常によくできているように思います。

アンケート調査でも、現場の先生から高く評価されています。そして指導に使いやすいたとも書かれておりました。特につながり、文章の意味とつながり、最初に言いましたが、それが非常にいいということです。

惜しむらくは、もう少し絵がはっきりすればいいかなと思った次第です。

たくさんありますので、簡単にお話ししますが、学校図書「輝け 未来」も、これもすばらしい本でした。特色として、命、社会、自然、世界・文化を柱といたしまして、これらに代表的な人物を結びつけてあるのです。それがこの本の特徴だと思います。僕が感銘したのは1年生の26ページ、「あなたの『生きようとする力』」、この文章が赤ちゃんが生まれたとき、執筆者は鈴木せい子女史です。今回の選択される本の中に生命誕生のことについて書かれていましたが、この文章が一番すばらしいのではないかと思います。

また、おもしろく印象に残ったのは、3年の相撲のしつけの174ページと、八王子の桑の都のことが東京都の例として取りあげてありました。大切なことにドラッグのことについて3年生の中に書いてありました。薬剤の作用ですね。2年生では言葉の壁を通すには日本舞踊を通して学び、それを乗り越えた体験談について書かれており、とてもいい教材でした。LGBTについて書かれていたのも特色であります。この重要性については、現場の意見が強かったです。

そのほか教育出版、「とびだそう未来へ」、これもまたすばらしかった。「学びの道しるべ」、理解を深めるように構成されていて、「やってみよう」、実際に自分で学んだことをやってみよう、広げて、広めていくような、どんどん自分を広げていくように書かれており

ました。

特色は3年生のときに死刑制度を考える、これはほかの本にはなかったと思いますが、特徴がありました。

それからもう一つ、3年生の96ページ「カーテンの向こう」、すばらしい文章が載ってまして、私自身はこの本、選定に当たりまして感銘を受けるところがたくさんありました。

次に移ります。廣済堂あかつき。最初に「中学生の道徳 自分を見つめる」というタイトルですが、自分を1年生で見つめる、そして2年生で自分を考える、そして3年生で伸ばす、これは非常によくできておりまして、これもよかったです、文章が少し長いかなという印象を持ちました。

「道徳ノート」はすばらしいものでしたが、この授業時間が年間35時間以内という時間で、そして1時間以内の授業の中に、このノートまでクリアできるかなと、ボリュームの問題があると思いました。だからノートは夏休みとか、そういうときに勉強する部分かなと考えました。

そのほか、「明日への扉」、学研、これもすばらしいのですが、「ブラックジャック」の漫画、それから稀勢の里もありましたが、文章が少し長いと思います。あとはスマホのこと、いじめのこと、東南アジアの貧しい話題についてのことなど、とても身につまされるような、勉強になることが書かれておりまして、これもいい本だと思います。

全部いいのですが、私が最終に推薦したいと思いますのは、荒川区という現場の先生方の意見や荒川区のアンケート調査結果なども十分に考慮して、2番目に挙げました光村図書「きみが いちばんひかるとき」を私は推薦したいと思います。

以上で終わります。長くなりましてすみません。

教育長 ありがとうございます。ほかに御意見ございますか。

小池先生、お願いいたします。

小池委員 教育委員の小池です。編集方針については、8者とも教育基本法及び「学習指導要領」にのっとり、いずれも甲乙つけがたく、大変よくできていると思いました。主体的、対話的な学び、2番目に考え議論する道徳、3番目によりよく生きる人の生き方に学ぶ、次の時代を切り開く、そういう特色を出していると思いました。

それから内容を前面に編集方針として打ち出したのは、学校図書だと思いました。大切にしたい四つのつながりとして、1番目に命、2番目に人・社会、3番目に世界・文化、4番目に自然を打ち出しております。しかしその方針が果たして十分に活かされているかということになると、惜しむらくはそれが具体的には読み取れないというのが私の印象で

す。

次に大きな特色として、廣濟堂あかつき及び日本文教出版の2者が、教科書とは別に「道徳ノート」を別冊として併用しています。しかしその編集方針はその2者で大きく異なるというのが私の印象です。まず1番目に、廣濟堂あかつきは主として自分自身に関すること、2番目に人とのかかわり、3番目に集団や社会とのかかわり、4番目に生命や自然、崇高なものとのかかわりという四つのジャンルに分けて、教科書の35のテーマを再配分しているとの印象を受けました。さらに右のページには22の問題を提起して、左のページに生徒がそれぞれ記入することとしている。いわば教科書と「道徳ノート」は密接に関連しているが、それぞれ独立して捉えるべきであろうと思いました。

これに対して日本文教出版も同じく「道徳ノート」を別冊として採用していますが、日本文教出版の場合は、各学年の35のテーマに沿って考えさせ、記入させる方式をとっております。ということは教科書と不可分一体のものと捉えることができると思います。荒川区の教職員のアンケートでは、別冊の「道徳ノート」については高い評価が与えられていると思いました。

教科書のサイズについては、3種類ありますけど、学研の「明日への扉」の1者のみがユニークなA4判を採用しております。荒川区では小学生用の図画工作のみがA4判を採用しているのですね。編集方針のプラス思考と未来志向というのを前面に出している。それを編集の基本方針としているのは、大変いいことだと思いました。

冒頭の「よりよく生きるための22の鍵」として、第1に自分を見つめ伸ばす、第2に人と支え合って生きる、第3に社会に生きる一員として、第4に生命を輝かせて生きる、この四つに年間の35のテーマをまとめております。これは1年から3年まで共通しております。いずれも感動的なストーリーであったり、ほかの発行者もそうですけれども、末尾の質問は1問だけで極めて短く、特定の答えを強制していないというのは、私は高く評価します。しかしA4判の強み、すなわちそれは何かと私の考えで、写真や絵の迫力が十分生かされていない。フォントの大きさもほかの社と同じで、むしろ余白が多いという印象を受けました。荒川区の教職員に対するアンケートによると、大きすぎると扱いづらいし、保管スペース、ロッカー、棚の大きさは変わらないという問題点が指摘されております。

次に日本文教出版「あすを生きる」ですね。「道徳ノート」については、先ほど述べたとおりで、授業の一環として用い得ると思います。それから巻頭にある、この教科書で学ぶテーマ11個というのはわかりやすい。また、それぞれのタイトルの下に、著作者の顔写真を入れているのは、私は好感を持ちました。

それからいじめ問題を正面から取り上げているのもよいと思いました。「いじめと向き合

う、「いじめって何?」、絵入りの図解というのはすごくいいと思います。それから「いじめと向き合う」に、87ページですけれども、心の様子をチェックしよう、ストレスの原因、対策、メンタルヘルス・チェックリスト、これは大変よくできていました。

それから「ごみ箱があったほうがいいか」という学習の進め方を第1、第2、第3というように示しているというのも好感を持ちました。それから73ページのプラットフォーム、「自転車の乗り方を考えよう」、これもなかなかいいと思いました。

次に廣済堂あかつきです。別冊の「道徳ノート」は、教科書とは独立したものと捉えるべきであるという私の考えは既に述べました。教科書の表題については、高野先生も指摘されましたけれども、1年生で自分を見つめる、2年生は自分を考える、3年生は自分を伸ばす、成長段階に沿ってタイトルを考えているというのはいいことだと思います。それから各学年の教科書の冒頭の「道徳の時間とは」というのが、なかなかよくできていました。特に五つの論点を各学年とも出しているのですが、五つの論点の第1が「さまざまな答えがある」と述べて、さらに「正しい答えやよい答えを見つける時間ではなく、自分を見つめ、自分自身の生き方を見つける時間である」と明記されているのは、大変いいと思いました。

しかしそれぞれのテーマを見ると、玉石混淆ですね。いいのは「この人生の主人公」、4ページですけれども、それから158ページの「母にあいたい」、この内容はすばらしいと思いました。しかし作者が必ずしもはっきりしないというのは残念なことだと思います。

末尾の「情報機器によるコミュニケーションを考える」、マナーと礼儀、あるいは変わり続ける社会がもたらすさまざまな課題というのも極めてタイムリーだと思いました。

問題は教科書のボリューム、プラス「道徳ノート」、これだけのボリュームを果たして1年間でこなせるか否か、これは教職員の方がいろいろ工夫されるのかなという印象を持ちました。

次は光村図書。荒川区では小学1年生から6年生の教科書として、光村の「きみが いちばんひかるとき」を採用している。光村は中学道徳の教科書としても「きみが いちばんひかるとき」を採用している。これは一貫していると思います。

中学においても四つのシーズンに分けておりますが、第1のシーズン、4、5月は自ら考えて、6から8月までは仲間との生活、9から12月までは広い視野で、第4シーズン1から3月までは共に学び合う。しかし教科書の内容として、それだけの特色があるのかなという、私はそれほどの特色はあまりないという印象を持ちました。

第1のテーマの「自分で決めて」というのは、末尾の学びのテーマ「自分で決めるとは」を含めて特によくできていました。

コラムもなかなか充実していると思いました。「友達とよい関係を築くには」、普通のタイプとチェックポイントをやると書いて、これはいいと思いました。それからもう一つのコラム、生物の多様性、遺伝子、種、生態系、これについてもいいと思いました。それからコラム、148ページですけど、「国際理解」について、意見が異なる時前向きにそれを捉えようと、「異文化というのは社会の中の多様性である」という表現は極めていいと思いました。

202ページから203ページについてですけれども、確かめよう、自分のよさやお互いのよさをグループとして書こうという試みもいいと思いました。

教師用の資料として、「ここが知りたい Q & A」というのは、私にとっては大変参考になりました。特に道徳教育の目標と道徳科の目標はどう違うのか。それから15番目の問いの道徳と国語はどんなところが違うのか、これは質問もいいし、それから中身もよくできていると思いました。

次に東京書籍に移りたいと思います。荒川区は東京書籍が出版している中学生用の「新しい社会、公民及び歴史」、並びに「新しい数学」、「新しい科学」を採用しております。小学生用の社会、生活、算数、家庭も採用している。見開きの「今日から始まる」というのは大変よくできていると思います。それから1年間で学ぶこととして、四つのジャンルに分けている。これは廣済堂あかつきと同じです。

編集委員会の作によいものが結構あるなという印象を持ちました。テーマの9番の登山前の夜遊び、11番目の情報モラルと友情、15番の友達と18番のごみ箱などです。生徒の作文も採用していますが、これもなかなかいい。例えばテーマの7番ですね。NHKの道徳ドキュメント、NHKがつくった制作案を活用していると。骨髓バンク移植第1号について、特にいいと思いました。いじめのない世界を各学年で特集している、これもいいと思います。それから「命を考える」を各学年で特集している。これもいいと思います。「アクション」というコラムも載っていますが、これもなかなかいい。9番のテーマの5人のグループ討論、20番目の席がえのことなどはなかなかいいなと思いました。

荒川区のアンケートですけど、教育センターのアンケートでは東京書籍が圧倒的に多いのです。他方、教職員のアンケートでは東京書籍も多い。しかし圧倒的に多いというわけではなく、光村や日本文教出版への支持も多かったというのが私の印象です。

次に教育出版、長所は編集方針のポイント1、考え議論する道徳、ポイント2、感動的、体験的、学習に適した教材、ポイント3、生徒の自己肯定感を高める、こういうところはなかなかいいと思いました。問題はこれが十分に反映されているかということを考える必要があると思います。

テーマの「おはよう」というのは、特にいいストーリーだと思いました。それから6番の植松さんのロケットへの道標はなかなかいいと思いました。しかし作者が不明なのですね。それから8番のテーマの「富士山」も作者不明、それから、なぜユネスコの自然遺産でなく文化遺産なのか、これは説明不足だと思いました。残念なことです。その他、作者不明が結構多いのです。テーマ10、12、31、32、33、2年生についても同じような傾向がある。作者不明というのが多いというのは、私は残念だと思いました。

次に学校図書、「輝け 未来」。編集方針として大切にしたい四つのつながりが、これはほかの発行者もそうです。命、自然、人・社会、世界・文化を掲げて、そのほかいじめの防止、安全の確保、学級づくりなどを掲げて、編集方針としてはベストのテーマだと思います。しかしこれが十分教科書に具体的に反映されているかというと、やや疑問に思いました。

テーマの末尾の「心の扉」には、大変よいものがあると思いました。3番のテーマの「博史のブログ」の末尾の自己採点表、テーマ5の異性について書こう、これはよい質問だと思います。自分のよいところ、学びの記録、礼儀の意義とそのあり方など、卒業文集最後の授業、35番のテーマですけど、これもなかなかいいと思いました。

次に日本教科書、これも1年生「生き方から学ぶ」、2年生「生き方を見つめる」、3年生「生き方を創造する」と、生徒の発達段階に応じて教科書の主テーマを進展させているのはよい。廣済堂あかつきと同じ発想だと思います。

他方、同じテーマの下に複数のテーマを含めている、ページ数は同じになるのです。テーマの6、8、9、10、11など、ちょっとこれ私は違和感を覚えました。本来は独立したテーマとすべきではないかと思いました。また作者が不明なことに違和感を覚えました。テーマ1、3、4、5、6、8、10、14。

2年生のテーマ18の末尾に安倍総理のパールハーバーの演説の一部を紹介したことについて、私は特に違和感は覚えませんでした。

以上のように、8者の編集方針、それから内容を考察すると、すべての発行者はそれぞれ持ち味を発揮していて、いずれも合格点を出していると思いました。なかなか甲乙はつけがたいのですけれども、どれかを選ぶとしたら荒川区のアンケートも考慮して、東京書籍の「新しい道徳」を選びたいと思います。次いで廣済堂あかつき、若しくは光村図書がよいのかなと私は思います。

以上です。

教育長 ありがとうございます。そのほかに御意見ございましたらお願いいたします。

では、坂田委員、お願いします。

坂田委員 まず、ちょっと私の意見を述べる前に質問をしたいのですが、どの教材も内容的には非常に充実したものがあって、結構重たい内容のものが、やはり道德ですので教科として多いのですが、したがってこの教科書を全部丹念にやるということは恐らく授業の進行上、難しいのだと思うのですね。それから都会である荒川区独自の教材といったものもあわせて使うというのが適切かと思えますけれども、選定の前提として、新しい教科ですので、どういうふうな活動、活用の仕方が標準的に考えられるかということについて、先に教えていただけますか。

教育長 それでは事務局、指導室、お願いします。

指導室長 まず道德科という教科になりましたので、この教科書を使用することが義務づけられるということが基本の考え方でございます。先ほどの教科書の特色を御説明する中で、例えば30項の教材は必須で、五つは補充ということで、五つの部分はこの教科書の内容ではなくて、本区でつくられている荒川区の教材を使うとか、若しくは違うものを使った授業の場面を想定しても構わないのではないかとということです。

教育長 よろしいでしょうか。

坂田委員 それで私の方は、まず選定調査会の調査報告につきましては、先ほどおっしゃった重要な4項目、若しくは内容、表現、内容項目、学習活動などですね。項目に照らして考えると、八つの教科書どれも合格点を与えられていると理解をしております、その上で全体を選考の対象とさせていただきます。

アンケートについては、私は点数をつけるとかそういうことはしていないのですが、アンケートを見ていると同じ論点に関しても、結構意見の分かれているところがあるなど。ノートの使い方であるとか、それから一番重要なのはこの教科書の読み方について、どれぐらいのガイドがあったらいいのかというのですか、ガイドがたくされればその分、例えば経験の少ない先生でも授業を進めやすくなるのかもしれませんが、一方でやはりそういう押しつけはよくないと。ガイドがどうしても多くなると押しつけ的になりますので、よくないという御意見も非常にたくさんあって、どれがいいということもさることながら、論点についてはやはり御意見のばらつきはあるかなというのが、私の読んだ感想でございます。

その上で、私の考えとしては、一つは、やはりあまり押しつけにならなくて、自由度のあるクラス議論ができるとよいと考えました。一方では、全くないとやはり先生の経験にもばらつきがございますので、適切な範囲でのガイドがあるかどうかという点も大事と考えます。

2番目は、今の質問に関連するのですが、荒川区独自の素材、教材との組み合わせが可

能かどうか。

3番目が、全体としてやはり子どもたちですので、素材の共感力というのでしょうか、共感力があるかどうかが大それたと思います。私も51歳になって、子どもたちのことが、共感力が十分判断できるかどうかというのはありますけど、共感力という、そういう素材があるかどうか。それから特に1年生の教科書ですけれども、やはり道徳というのは少し重たいですね。やはり教科書ですので、入り口のところで身近な感じがあるかどうか。中1の教科書の、この教科書の最初のところを身近に感じられるかどうかというのが大事ではないかなと考えました。

最後に一つ、今のは私の判断基準なのですが、最後のところでちょっと迷ったのは、中学生はやっぱり思春期にありますので、読んでいますとどの教科書も非常に重たいテーマの文章が出てきて、これをどう考えるかというのが、ちょっと悩ましいところで、ものによってはちょっと重た過ぎるかなとも思ったりしながら、しかし現実には直面する場面もあるので、ただ避けるだけでも済まないのかなとも考えました。

教材によっては、自分がそういう立場でなければいいのですけれども、自分がそういう、同じ立場にいるような子ども学校にいる教材はどう考えたらいいのかなというところが、ちょっと悩ましいところでした。

それで、両先生は全体を触れられましたので、私の方では私がいいのではないかと思います。三つについて、意見を述べたいと思います。

一つは、1ページ目の東京書籍です。東京書籍はまず目次が非常にわかりやすいと思いました。それから1年生の入り口のところです。スポーツの話題があって、後ろの方はだんだん重たい素材も出てくるのですが、1年生の入り口のところは非常に入りやすいかなと考えました。

内容全体としても考え議論に値するような素材が並んでいると思います。それから先ほど申し上げたガイドについては、多過ぎずガイドは適切な範囲であるという評価をいたしました。

次に学校図書ですけれども、学校図書は、内容はとてもよい文章で、私は国語としても使えるのではないかなと思いました。テーマはそれぞれが明確で、特にテーマはほかのと比べると総体的に若いというのですか、今風の教材が非常に多くて、子どもたちとしてはとっつきやすいかなと思いました。

一方で、1年生の導入のところはやや難しく、それから私の感じでは先生の指導力がこの教材を使いこなせるかどうか、結構大きく影響してくるような教科書ではないかなと見た次第です。

3番目ですけれども、光村図書の「中学道徳 きみがいちばんひかるとき」です。国語の教科書的な感じかなと予想したのですが、意外に私が思っているほど国語的ではなくて、時間の限られた道徳という教科の範囲内では妥当な文章構成になっていると思います。

学びのテーマについては、ガイド立てになっていて指導しやすい教科書ではないかと思えます。自由に考えて、考えたものを「私の気づき」のところに記入するという形にもなっていて、副読本まで使って記入できる時間がこの授業の中にあるのかなとは思いますが、これぐらいであれば可能ではないかなと思いました。

以上がざっとですけれども、今の時点でよろしいですか、私としてはこの三つのうちのどれかということで意見を申し上げたいと思います。

教育長 ありがとうございます。それでは小林先生、いかがでしょう。

小林委員 小林です。よろしくお願いいたします。

まず最初に、選定に当たっての留意点ですが、考え議論する道徳ということを重視させていただきました。これが正しい、あるいはこれがよくないという正解があって、そこにたどり着くための話し合いではない。むしろいろいろな意見を出し合い、違った意見や立場があることを理解します。その上でお互いにどのように尊重し合いながら生きていけばいいのかを考え、議論する道徳であってほしいと思いますし、それを手助けする教材が大切だと考えております。

では具体的に教科書を選ぶときに考えたポイントですが、まず1点目ですが、やはり教材も非常に重要であると思います。作品という教材による影響力がございますので、教材の質が高いということを第1に考えました。

そして2点目ですが、作品の後の発問というか、ガイドの部分ですが、これは中心発問ですけれども、これも非常に重要だと思っております。この場合に作品を読み取ることとともに、作品に基づきながら自分自身のあり方を振り返ることができるかどうか、また、いろいろな意見を出すことができるかどうかという点が非常に重要です。

3点目ですが、分量、また作業量を判断基準として考えました。やはり1時間という授業の中でどの程度深めることができるのかと。あまり課題が多過ぎても考えが深まらないということが生じるかと思っておりますので、そのバランスが重要であると思います。

以上を判断基準といたしまして、私としましては3者がいいのではないかと考えました。

まず1者目ですが、光村図書を候補として考えさせていただきました。光村図書ですが、特色としましては、1点目として教材が非常にいいと思います。教材を読んで人間としての心の温かさを感じられるような、すぐれた教材であると思います。ただし、若干教材が現代的でないものもあるように思われまして、それが少し気になる点ではありました。

光村図書の特色としまして、2点目は考える観点に関する問いが多いように思います。さらにつなげようというのがありまして、作品から深く学びつつ、自分の生き方につなげるといふ、そういった特徴があると思います。光村図書を1者目の候補として挙げたいと思います。

2者目ですが、東京書籍を挙げたいと思います。東京書籍、まず1点目として、教材に関していいと思います、質的には中程度のものであると思います。編集委員さんの作品、あるいは生徒の作品を使っておりまして、質的には中程度のものであると思ったのが1点目です。

2点目ですが、東京書籍の場合に、この教材、作品があくまで導入的な位置づけと思われる。作品そのものではなくて、作品を通じて自分のことを振り返ることを重視しています。

東京書籍、3点目ですが、中心発問が簡潔ということを挙げたいと思います。作品の内容と、自分自身の振り返りにかかわる、その二つで構成されております。その意味では作品を読み、その後、自分自身を振り返り、さらに仲間と一緒に議論する時間ができるといったメリットがあると思います。

そして3者目の候補ですが、学校図書を挙げたいと思います。学校図書に関しましては、生徒にとって身近な題材を教材化しています。日常生活を題材化しておりますので、この点、生徒との距離感が近いと思うのです。ですので自分自身を作品のシチュエーションに置いて考えることができるといった、そういったメリットがあるのではないのでしょうか。

以上から、この3者について候補とさせていただきたいと思っております。それ以外についてですが、それぞれ非常にすぐれておりますが、少し気になった点として、言及させていただきたいと思います。

例えば日本文教出版ですが、「道徳ノート」がありまして、使い勝手がよさそうに思われます。しかしながら、生徒が主体的に考える部分もあってもいいのかなという点が少しだけ気になりました。

また、教育出版に関しましては、非常に教材がよく、また現代的な内容も盛り込まれているのですが、巻末の各都道府県の人物、この選択の基準が明確ではない点が気になった点です。

学研教育みらいに関しましては、教材の質が高いと思いましたが、中心発問が簡潔でいいと思ったのですが、しかしながらサイズが大きくて扱いにくいのではないかという気がいたしました。

廣済堂あかつきに関しましては、評価されている教材を使っておりまして、非常に重厚感があるのですが、少し分量的に多いのかなという気がいたしました。

日本教科書に関しましては、日常生活でどう行動するかを考えさせる、そういった教科書になっておりまして、その点ではすぐれていると思うのですが、デジタル教材の状況が不明であるという点が気になりました。

とりあえずの段階は、今の段階では3者、光村図書、東京書籍、そして学校図書を候補として挙げさせていただきます。

教育長 どうもありがとうございました。ただいま4人の委員の皆様から御意見をいただきました。

それでは若干ダブってしまうかもしれませんが、私からも8者の教科書を読み込んだ感想、そしてまた評価をさせていただきたいと思います。順次触れさせていただきたいと思います。

まず初めに東京書籍ですが、先生方から御意見をいただいたように、とても見やすいというのが第一印象でした。各巻冒頭に詩も記載されていて、インパクトもあり、めりはりあるページ構成になっていると思いました。

議論する道徳について、先ほど小林委員からお話がありましたけど、生徒たちにテーマを設定し、そしていきなり正解を提示するというよりは、考えさせる、そしてまた議論させて自分なりの考えをまとめていく、そういう過程を設問の中で誘導し、先生たちも指導しやすいのではないかと思います。また荒川区では従前から道徳の副教材、全国一律の副教材とは別に荒川区としての郷土資料集を中学校の先生方が御努力いただいて作成して、それを郷土学習ということで道徳の時間に活用しているのですけれども、東京書籍については郷土のことを考えるというテーマで本文にも、そして巻末にも記事が記載されていて、荒川区の郷土資料集の活用とも関連づけて教えられると思いました。

また、いじめ問題についても、ユニットで各学年ともまとめていまして、わかりやすい構成になっていると思った次第です。

次に、学校図書ですけれども、先ほど小池委員からお話がありましたように、「心の扉」ということで、道徳の四つの視点の学習の狙いをわかりやすく解説していまして、この中でも郷土愛についてということも触れられております。バランスがとてもいいという印象でした。

ただ、教材ごとに題名の前に副題のような形で狙いが書かれているのですが、狙いを最初に明らかにすることが果たしていいのか、何かもう正解がそれですよと言っているようで、ちょっとどうかなという気はいたしました。

また、教材ごとに発問を考えよう、そしてまた煮詰めようということで、3段階で構成していまして、教材ごとに生徒たちの議論を深められる、そういった発問がなされており

ました。

いじめ問題については、大変関心したのが、3年生の教材に、「僕たちがしたこと」ということで、自殺未遂に至る、かなり深刻な事例についてもあえて教材として取り上げることによって、いじめ問題が人権侵害どころか生命の危険も招きかねない重大な問題であるということを生徒たちに考えさせる、そういったいい教材ではないかと考えました。

次に教育出版です。教育出版は、ページの構成が簡潔で見やすい構成になっていますし、また内容も学年進行に適したテーマ設定となっていて、年間を通して教員の方たちがその学期ごとの行事と絡めて教えやすい構成になっております。

ただ、それが逆にちょっと縛られてしまうということにも、プラスマイナスの面があるうと思っています。

郷土の学習についても、環境保全に取り組む中学生の活動等も取り上げていて、生徒たちにとっては郷土を愛する活動として身近に感じられるのではないかと思います。

また、いじめ問題についても、アニメ等でわかりやすく解説していて、先ほどちょっと深刻な事例も取り上げているという例も触れましたけれども、逆にいじめ問題についてわかりやすくといいますか、生徒たちがとっかかりとして議論しやすいような、そういった教材を取り上げているところがいいと思いました。

続いて光村図書です。光村図書については先ほど小林委員もおっしゃられたように題材がやはりいいなと、すぐれた題材を取り上げているなという印象でした。また議論する道徳という意味では、学びのテーマとして教材ごとに手引を添付して目当てが示されているので、教員の方たちは教えやすいという気はしました。

ただ、活字が小さくて、中学生たちがどれだけ興味を持ってもらえるかなというのが、ちょっと心配でした。分量も少し多いかなという気はしています。

また、いじめ問題についても、いじめを直接扱うものと、友人関係ですとか、あるいはまた思春期の恋愛といいますか、人を好きになるということを通した、その関係がいじめというか、トラブルに発展してしまいがちになるという例も取り上げるなど、結果としていじめや孤立、あるいはまた友達を排除してしまう例に至ってしまうこともあるよということを生徒に身近に取り上げている。そういった題材がよかったと思いました。

続いて日本文教出版です。日本文教出版は、大変いじめ問題に重点を置いた構成になっていると思いました。各学年ともいじめ問題を取り上げた教材が多く、そもそも道徳の教科化に至ったきっかけとして、いじめ問題が全国的に深刻化する、そういった大きな課題を踏まえて、教科書を作成しているということが大変評価できると思いました。

ただ、先生たちも触れられていましたけど、「道徳ノート」について、いいとは思いますが

けれども、50分の授業でここまでできるかどうか、そしてまたあまり正解といえますか、考える視点を書き過ぎてしまうと、どうしてもそこに誘導されてしまって、正解はもしかしたらあるのかもしれないけれども、子どもたち自身に考えさせるべき授業であるにもかかわらず、何か模範解答を書いてしまう、それで道徳の授業が終わってしまうところがないかと懸念されてしまうと、そういった感じを受けました。

続いて学研教育みらいです。学研教育みらいは、逆に設問が1行のみで、大変あっさりしてしまっていて、そういった意味では日本文教出版の道徳と逆に教材を通して子どもたちが自由に考える、先生たちも先生の教育方針にのっとって指導がしやすいという教科書構成になっております。

また、課題との直接な関係はないのですけれども、「深めよう」とか「クローズアップ」とか、「クローズアッププラス」というところで、中学道徳の四つの視点に従って議論を深められる構成になっておりまして、そういったところが大変感心いたしました。

ただ、先生方がおっしゃるように、教科書のサイズが大きいかなという印象はどうしてもぬぐい切れませんでした。

続いて廣済堂あかつきです。廣済堂も大変本文が簡潔で見やすく、題材も文科省の推薦のものを多く取り入れていただいて、間違いがないなというものでした。ただ、現代的な題材が比較すると少なく、子どもたちが興味を持って教科書を読んでもくれるかなということが若干心配になりました。先生がどの題材を取り上げるかということにもなるのでしようけれども、あまり教訓的な題材ばかりだと子どもたちも「またか」ということになってしまう部分もないかなと思いました。

最後に日本教科書ですけれども、逆に日本教科書はオリジナルの教材が多数掲載されておりまして、ニュースや投稿をもとに問題提起をしたりと、今日的な課題を数多く取り上げているということで、子どもたちが興味関心を持って勉強といえますか、道徳の授業を受けられると思いました。

ちょっと字が小さいというのが気になりましたけれども、読めば読めると思います。

また、課題ごとに考え、話し合ってみよう、そして深めようということで、基本設問が2点ないしは3点提示されておりまして、議論するものとか、アクティブラーニングを進める上でも適当と思った次第です。

以上、8者について述べさせていただきました。今までの先生方の、ではこの中でどの発行者を推薦するのかと、教科書を推薦するのかということですが、私は東京書籍か学校図書、教育出版、光村図書出版、以上4者の教科書を推薦させていただきたいと思っております。

さて、今の私自身のコメントも含めて、先生方から御意見を賜ったところでございますけれども、御意見を互いにお聞きいただく中で、この点についてはどうなのだと、自分はやっぱりこう考えるのだけれどもというような、補足の御意見でも結構ですし、また事務局に対する追加の質問でも結構です。御質問、御意見がございましたら、お願いいたします。よろしいでしょうか。

特にさらなる御意見、御質問等もございませんようですので、ただいまから採決に移らせていただきたいと思います。既に1者ないしは数者を推薦するということで、お話をいただいておりますけれども、採決に当たりましては掲載順に私から発行者名を挙げますので、一番よいと思われる発行者に挙手をお願いしたいと思います。

それでは議案記載の順ですので、東京書籍が最もふさわしいと思われる委員の方、挙手をお願いいたします。

〔挙手〕

教育長 2名ですね。

学校図書がふさわしいと思われる委員の方、挙手をお願いいたします。

〔挙手〕

教育長 ゼロ名ですね。

それでは、教育出版が最もふさわしいと思われる方、挙手をお願いいたします。

〔挙手〕

教育長 ゼロ名ですね。

それでは光村図書出版がふさわしいと思われる方、挙手をお願いいたします。

〔挙手〕

教育長 2名となっております。

日本文教出版がふさわしいと思われる方、挙手をお願いいたします。

〔挙手〕

教育長 学研教育みらいがふさわしいと思われる方、挙手をお願いいたします。

〔挙手〕

教育長 ゼロですね。

廣済堂あかつきがふさわしいと思われる方、挙手をお願いいたします。

〔挙手〕

教育長 ゼロですね。

日本教科書がふさわしいと思われる方、挙手をお願いいたします。

〔挙手〕

教育長 ゼロ名となっております。

今のところ、4名の先生方のうち、東京書籍が2名、光村図書出版が2名となっております。先ほど申し上げたように、私は東京書籍か学校図書、教育出版、光村図書出版の4者ということで申し上げましたが、2対2になってございますので、もう1票が決定を左右するということになります。私自身としては、4者の中であえて1者を選ぶとすれば、東京書籍を選ばせていただきたいと思っています。

以上、先生方の御意見が出そろいました。改めて確認をいたします。5名の教育委員の採決の結果、東京書籍が3名、光村図書出版が2名となりましたので、「特別の教科 道徳」、来年度から中学校で使用する教科書については、東京書籍の教科用図書を採択することに決定いたします。

なお採択結果につきましては、本委員会の終了後に公開いたしますので、よろしくお願い申し上げます。

以上で議案第28号「平成31年度から使用する中学校『特別の教科 道徳』教科用図書の採択について」の審議は終了いたしました。ありがとうございました。

続きまして、議案第29号「平成31年度に使用する小学校教科用図書の採択について」を議題といたします。

事務局より議案の説明をお願いいたします。

指導室長 それでは、議案第29号「平成31年度に使用する小学校教科用図書の採択について」、御説明をいたします。

提案理由でございます。平成31年度荒川区立小学校で使用する教科用図書を採択するものでございます。

内容でございます。平成31年度荒川区立小学校で使用する教科用図書として、別紙資料1に基づき、教科種目ごとの教科用図書として選定し、採択するものでございます。

平成30年度は平成31年度に荒川区立小学校で使用いたします教科用図書の採択年度でございますが、教科書発行者から文部科学省への検定申請が1点もございませんでした。現在、小学校で使用しております教科用図書に変更が生じないことから、平成26年度に調査研究を行い、荒川区の子どもたちにとって一番適した小学校教科用図書を採択いたしました経緯からも、現在、使用しております小学校教科用図書を平成31年度も1年間使用するものでございます。

別紙資料1を御覧ください。現在、荒川区立小学校で使用しております教科用図書の一覧でございます。なお、平成32年度から「新学習指導要領」実施となることから、平成31年度に小学校教科用図書を採択いたしまして、平成32年度から使用する予定でござ

います。

御説明は以上でございます。御審議よろしくお願いたします。

教育長 ただいま事務局から、小学校教科用図書について、平成31年度については現在、使用している教科書を1年間延長して使用するというので、案が出されました。このことについていかがでしょうか。御異議ございませんでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

教育長 それでは異議ないものと認めます。議案第29号「平成31年度に使用する小学校教科用図書の採択について」は、原案のとおり現在の教科書を使用するというので決定いたしました。

続きまして、議案第30号「平成31年度に特別支援学級で使用する一般図書の採択について」を議題といたします。事務局から議案の説明をお願いします。どうぞ。

指導室長 それでは、議案第30号「平成31年度に特別支援学級で使用する一般図書の採択について」、御説明をいたします。

提案理由でございます。平成31年度に荒川区立小学校及び中学校の特別支援学級で使用する一般図書を採択するものでございます。

内容でございます。平成31年度荒川区立小学校及び中学校の特別支援学級で使用する一般図書として、各学校が教科種目ごとに児童・生徒の実態に応じた教科用図書を調査研究し、その結果を受けて教育委員会において採択をいたします。別紙にて教科種目ごとの一覧が選定、採択いただきたい図書をまとめたものでございます。小学校71冊、中学校32冊でございます。

平成31年度に特別支援学級で使用する一般図書の採択については、小・中学校の特別支援学級で特別な教育課程を編制する場合は、学校教育法附則第9条、同施行規則第139条の規定によって、教科により当該学年用の文部科学省検定済みの教科用図書を使用することが適当でないときには、当該学校の設置者の定めるところにより、ほかの適切な教科用図書を使用することができるということになっております。特別支援学級で使用する教科用図書がいわゆる一般図書と呼ばれております。

本区におきましては、東京都教育委員会が作成しております資料を参考に、各学校が使用する一般図書を調査研究することとなっております。今回は平成30年から31年使用特別支援教育教科書調査研究資料、及び平成31年度の一般図書一覧から、各学校が調査研究をいたしました。

東京都では、これら2種類の資料等を示される一般図書について、十分な調査研究を行っております。本区で使用する一般図書につきましても、都立特別支援学校で使用する図

書と同じものを使用することにより、各特別支援学級の児童・生徒の状況に応じた適切な図書を選択することができると考えております。

本日は平成31年度荒川区立小学校及び中学校特別支援学級で使用する一般図書の調査のまとめを報告いたします。御審議、何とぞよろしくお願い申し上げます。

教育長 ありがとうございます。確認ですけれども、この一般図書については特別支援学級の先生方が、この図書が子どもたちの教育に最もふさわしいのではないかとということで御推薦いただいた図書、いずれもそういった図書であるわけですね。

指導室長 そのとおりでございます。各学校から調査研究した結果で挙げていただいたものでございます。

教育長 それでは議案第30号につきまして、委員の皆様の御意見を承れればと思っております。

どうぞ、坂田委員。

坂田委員 1点質問ですけれども、中学校の方の一般図書について、音楽と道徳は採択がないのですけれども、理由はどういうことなのでしょう。

教育長 指導室長、どうぞ。

指導室長 通常学級の検定の図書を使用するということでございます。

教育長 よろしいでしょうか。

坂田委員 はい。

教育長 そのほか御意見、御質問等ございますでしょうか。

それでは御意見、御質問等なければ、原案どおり決定することについて御異議はございませんでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

教育長 それでは議案第30号については、原案のとおり決定いたしました。

次に、その他の報告事項ですけれども、事務局、何かありますか。

教育総務課長 特にございません。

教育長 本日予定しておりました案件は以上です。

事務局からもほかに報告事項等ないということでございますので、以上をもちまして、教育委員会第14回定例会を閉会とさせていただきます。本日は長時間にわたり、ありがとうございました。

また、傍聴された皆様にお願いいいたします。お帰りの際には傍聴券を係員にお返しいただきますようお願いいたします。

了